

第17回まちづくり協働フォーラム

2 / 8
土



ほほえみプラザで、NPO法人まちねつと大口と大口町が主催で毎年地域住民が集まりまちづくりについて考える「第17回まちづくり協働フォーラム」対話から創造する未来図」が開催され約60名が参加しました。

第1部は、講師の加藤武志さんから、「対話から創造する未来」と題して、話し合いで生まれた、犬山市のまちづくり事例を学びました。また、若い世代が集まり、語り合いや、つながりの場になるようにと開催されたBIG Mouth Lab.で考えた『未来への夢・野望をこめた物語』が紹介されました。

第2部は、バズトーク交流会「対話からはじまる物語」。参加者は自分がやりたい事や話したい事をプラカードに掲げ、小グループで一緒にできそうなことや、アイデアを出し合いました。

最後に、バズトークの話し合いをもとに、自分が挑戦したいことをハート型の紙に書き、大口町の地図のせて掲示しました。

参加者からは、「若い世代が参加でき、人がつながる場の創出が必要だと思った」などの感想が聞かれました。

文部科学大臣賞を受賞

2 / 14
金



受賞作品
「オウムの見る夢」

佐藤貴昭さん(秋田)は、昨年11月に新芸術協会主催の「第48回新芸術展」に出展し、文部科学大臣賞を受賞しました。

受賞作品はパステル画「オウムの見る夢」で、製作期間は1か月です。「パステル画は、絵肌の弱さや繊細さから大作にはやや不向きですが、パステル画を描いている方々へのエールになれば」と、受賞の喜びを笑顔で話されました。

大口町更生保護女性会が役場南ひろばにベンチを寄贈

3 / 3
月



大口町更生保護女性会(現在会員67名)は、昭和26年に岩倉市・大口町合同の「更生保護婦人会」として結成され、平成10年に「大口町更生保護女性会」として独立。令和5年に結成25周年を迎えました。

これまで寄付やバザーの収益を活用しながら周年事業の準備を進めてきましたが、コロナ禍の影響により1年延期され、今年、役場南ひろばの2か所にベンチを寄贈しました。

大森邦代表は「大口町が明るく、住みよいまちであることに感謝し、更生保護活動への理解を深めるきっかけになれば」と話されました。

あなたの身のまわりの「まちの話題」をお寄せください。
 問合せ先 役場 秘書広報室 95-1616
 「まちの話題」は大口町 NPO 登録団体 ZOOM が取材・編集をおこなっています。



大会に向け、町長に活躍を誓う

北名古屋ベースボールクラブに所属する大口中学校1年生の山口竜太さんが、3月21日(金)におこなわれる文部科学大臣杯第16回全日本少年春季軟式野球大会ENEOSTーナメントに出場するため鈴木町長へ報告に訪れました。

ピッチャーとしてベンチ入りしている山口さんは登板する機会があれば三振を奪いたい」と町長に意気込みを語りました。

2 / 25
火



歌声届く 第15回おおぐち合唱祭

おおぐち合唱祭はコロナで開催を見送った年もありましたが、今年、第15回を迎えました。各出演団体の代表者から成る、おおぐち合唱祭実行委員会によって、企画から開催まで手づくり行事として実施しています。ここ3年間は来場者が増加しており、町民会館がほぼ満席になるまでの大口町の行事となっています。

当日は町内外から集まった9団体がステージに立ち、日ごろの練習の成果を披露しました。

2 / 16
日



第35回 桜並木健康ジョギング



五条川桜並木沿いを走る「桜並木健康ジョギング」が開催され、403名の参加者がゴールを目指しました。

コースは、5キロ・3キロのジョギングコースと、1.8キロのウォーキング(ポールウォーキング)コース。早朝から快晴となり、絶好のマラソン日和に恵まれました。昨年の愛知駅伝で活躍した選手をはじめ、仲間同士で参加した子どもたちやシニアまで、幅広い世代のランナーが、それぞれのペースで桜並木を駆け抜けました。

3 / 9
日